

会長就任あいさつ



公益社団法人長野県介護福祉士会 会長 柳澤 玉枝

この度、6月24日定時社員総会に伴う理事会において、会長に選任され今年度から会長に就任することになりました。

初代会長の小島さん、二代目会長の上村さん、その後を引き継いだ畠山さんが職能団体としての介護福祉士の活性化に精力的に取り組み、功績を残された後を受けての大役に身が引きしまる思いです。

長野県介護福祉士会は、介護福祉士の国家資格は、「取得しただけではだめだ、この資格は取得したときがスタートだ」として、自分たちが勉強して、育たなければ社会に認められない」という、諸先輩方々の熱い思いで平成4年に設立されました。今年で25年を迎え今日まで、「研修なくして介護なし」を礎に介護福祉士の資質向上を目指し研修を中心に活動を進めて来ています。会員数も3千人を超え全国1位の座を確保するなど大きく前進してきました。

そういった中で幾度かの制度改正がされ現在は、2025年に迎える超高齢化社会に向けて地域包括システムの構築が進められています。地域包括ケアシステムの構築では、誰もが住み慣れた地域で暮らせる地域づくりを目指すとして地域ケアへの転換が示され、その実現には今まで以上に医療、介護の連携、協労をしていくことが重要となり、利用者の日常に接する機会が多く日々の状態変化にも気づきやすい立場にある介護福祉士は、介護チームのサービスのマネジメントや他職種と連携する力が必要となってきます。そういった意味でも、益々介護福祉士に対する期待が高まり専門性が求められています。

生活を身近で支える専門職としての介護福祉士の資質を高め、地域包括ケアの推進等介護サービスの高度化に対する社会の要請に応え、社会的評価を高めるために今後も、職能団体の責務として、各種研修を積極的に進めて参ります。

今、介護の現場では人材不足が潜在化し、介護職員のモチベーションや業務に大きく影響しています。大変厳しい状況ですが、笑顔を忘れず介護の本質を見失うことなく介護福祉士としての業務を実践して行ってほしいと願っています。

また、現在の介護福祉士会は、会員拡大が大きな課題になっています。会の活性化を図るためには、身近にいる仲間や未加入の介護福祉士を研修会に誘ってほしいと思います。仲間と学ぶことで多くの情報や介護に関する知識が得られ広い視野を持ち、先を見通した業務展開に必ずつながっていくことを確信しています。

できるだけ多くの介護福祉士に情報を伝えることでコミュニケーションを持ち、連帯感が持てるような仲間作りができればと考えています。長野県介護福祉士会が更なる前進ができるよう役員一同力を合わせ努力して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

平成29年6月